

敦賀市「ゼロカーボンシティ」宣言

地球温暖化の進行に伴い、今後災害や猛暑のリスクがさらに高まると言われており、私たちの生活の様々な点で影響を与えます。

2015年に合意されたパリ協定では「産業革命前からの平均気温上昇を2°C未満とし、1.5°Cに抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有され、2018年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書では、この目標達成のために「2050年までにCO₂の実質排出量をゼロにすることが必要」とされました。

また、我が国では、2020年10月、第203回臨時国会の所信表明演説において、「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことが宣言されました。

敦賀市は、長年にわたり脱炭素電源である原子力発電所の立地を受入れ、現在では水素エネルギーの普及にも取り組んでいる都市として、2050年までに市内のCO₂排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」へ挑戦することを宣言します。

令和3年7月1日

敦賀市長 瀧上 隆信